

文紙MESSE

3年振りにリアル開催

WEB見本市を併催

日本文紙MESSE大賞発表

グランプリにキューブボックス72

表などが影響し、来場者数は前年(2019年)比61%減の5650人(業界関係者2051人、一般来場者3599人)の結果となった。

初日、午前10時から1階入りで開会式を行い、黒田章裕代表幹事(大阪紙製品工業会会長)は「コロナ急拡大の中、感染対策を徹底して3年振りにリアルで開催する。会場には69社が出展、WEBのみ参加の2社を加えて、71社の企業が参加している。会場でお元気づけ、と声を掛けられ、思いがけない出会いに会話も弾んだ。リアルでは製品に触れてもらい、意見や感想を直接聞くことができる、オンラインではできない価値がある。今後はリアルの価値とデジタル・オンラインを融合させた新しい形の見本市へと移行していくと思う。生まれた時からインターネットが普及しているデジタルネイティブ世代「Z世代」と、高度経済成長期を過ごした世代とは消費への価値観が違ってくる。消費者の価値観が変化する中、リアルの見本市は新しい価値感を探る機会ともなる。来場者が各ブースを回って、いろいろな発見をしてもらいたい。この2日間、成功裡に終了することを願う」と挨拶。

祝電披露の後、協賛団体の大阪文紙事務部協同組合・松本吉司理事長、大阪文紙事務用品協同組合・金澤利治理事長、一般社団法人大阪文紙会館・志方弘嗣理事長と主催者の黒田章裕代表幹事、西村貞一代表幹事(一般社団法人大阪文紙工業連盟理事長)、舟橋正剛幹事(中部文紙工業会)が祝電を贈った。

(NEXT switch株式会社社長、文書管理専門家・寺西廣記氏、「未来の文具需要」(文具営業専門家・寺西廣記氏、文具フムリエ・石津大氏)、2日目は「変化する時代、変化する働き方・ツール」(コクヨフアンチャー事業本部・杉山由希子氏)、コングセラー文具の成り立ち(株式会社本田誠文管見崎・官原伸次氏)など、時代のトレンドやニーズに即した「プロのノウハウ」が行われた。

このほか、大阪市消防局や大阪府立図書館とのコラボイベントも実施した。2日目午後4時から「日本文紙MESSE大賞2022」の表彰式を行い、グランプリ(1点)にサクラクレパス「キューブボックス72」、機能性部門・最優秀賞(大阪府ものづくり振興協会賞)にクツワ「マ磁ケシ」、優秀賞(文紙MESSE協議会賞)にサクラクレパス「ボールサインiDプラス」、LIHIT LAB.「キューブフィズコレクションケース」、デザイン性部門・最優秀賞(大阪デザインセンター賞)にマックス「みずべのいきもの さめシリコンカバーホッチキス&針ケース」と表彰された。

審査員講評のあと、西村代表幹事が「何も無いところから新製品を生み出すことはできない。商品開発は小さな工夫の積み重ね。日々考えて、工夫を凝らし、良いものを作る、こうした不断の努力が日本の文具の地位向上に表を結んだ。ここから始まると思うので、2023年に向けて、更に改良・工夫を重ねてほしい」と受賞企業にエールを贈った。

西村代表幹事は「無事に終えることができて良かった。消費者の反応をじかに感じることができ、リアルの良さを再確認した。来年は出展社を増やして、さらに盛り上げたい」と、2023年の開催に向けて意欲を語った。

水谷実行委員長は「今年展示会の特徴について、「第1に滞留時間が長くなった、第2に熱中症警戒アラート発表による高齢者や子供たちの来場が減った反面、ビジネスシーンではゆったりと商談できた良さもあったのではないかと説明した。



文紙MESSE大賞の受賞者



開催を待ちわびた来場者で賑わう会場

会期中の講演会は、初日は令和5年開始インボイス制度、電子帳簿保存法などの対応策「ラディックス株式会社」、コロナを乗り越えた「マツのサフスク」ビジネスモデル



新製品コーナーに注目が集まる



Advertisement for heart株式会社 (Heart Co., Ltd.) featuring the slogan '人から人へ心を伝える' (Conveying hearts from person to person) and listing products like paper and stationery.

Table titled '日本文紙MESSE大賞2022' listing award categories (Grand Prix, Functional, Design), winners, company names, and product names.

